

**2019年度
第3四半期(2019年4月～12月)
決算説明会**

質疑応答(要旨)

2020年2月7日 15:30-16:30

株式会社キッツ

質疑応答要旨①

No.	項目	Q	A
1	半導体市場	足元の受注状況は？	半導体製造装置向けバルブは、非常に短納期である。受注は徐々に回復しているが、急激に上がっているという動きではない。
2	半導体市場	海外市場の状況は？	韓国は需要が戻ってきているが、新型コロナウイルスの話もあり、中国は不透明。
3	半導体市場	今後の回復のイメージは？	半導体業界の市況は、かなり戻ってきているという話を聞くが、バルブ市場は完全に切り切っていない。半導体向けの売上は、第1四半期を底として徐々に回復してきているが、本格的な回復は、2020年度後半と見込んでいる。
4	国内建築市場	第3四半期までの状況は？	市中在庫の調整が思ったより長引き、また新基幹業務システム稼働に伴う初期トラブル(納期遅延等)の影響もあった。足元の末端の需要は比較的堅調であり、第4四半期以降はそれほど心配していない。
5	国内建築市場	市中在庫の水準は？	適正水準を上回る状況が継続しているが、受注は回復してきており、「モノの動き」は出てきている。
6	国内建築市場	在庫の適正水準が上がっているのか？	2年連続で実施した価格改定と、新基幹業務システム稼働による納期不安に伴い、先行発注があった影響で、上がっている可能性はある。

質疑応答要旨②

No.	項目	Q	A
7	国内建築市場	2020年度の売上イメージは？	今期より落ちるイメージはなく、やや良くなると見ている。
8	ASEAN市場	中期経営計画に掲げているミドルクラス(ボリューム)ゾーンへの本格参入について、進捗はどうか？	マレーシアのバルブメーカーUnimech社と資本業務提携契約を結び、キッツから役員を1名派遣し、常駐している。現在、ASEANの国別戦略を立案しているところ。今期中にはまとめたい。
9	ASEAN市場	実際に数字となって表れるのはいつ頃か？	来期の後半からというイメージ。3年以内には、なんとか具体的成果を出したい。
10	伸銅品事業	新工場建設による生産性向上効果はいつから出てくるか？	今期中に、旧設備との並行稼働を解消し、来期は生産性向上効果をフルに出していきたい。
11	新基幹業務システム	導入による業務の効率化は見込めるか？	初期トラブルはほぼ解消した。業務効率化には、時間が掛かると見ており、来期はそれほど期待していない。